

# ふしみさらだボール子育て情報



「豊かな経験」  
令和3年9月22日号  
板橋富士見幼稚園



## 自己肯定感が育つ豊かな経験

最近よく「豊かな経験を」という言葉を耳にします。家庭は小さな小さな社会であり、その中心は家族です。子どもは大人から与えられた環境の中で、自分なりの思考を思い巡らせ、体験を積み上げ、それを知識として記憶していきます。特に幼児期は、無意識な体験が記憶として内在し、その後に発現してきます。

では、「豊かな経験」とはどんな環境によるのでしょうか。幼児は、成長と共にすべての諸機能が発達し、徐々に言葉を介して大人と意思疎通が出来るようになります。生後半年頃にはほとんどが模倣や反射で反応することが多いのですが、1歳半頃を境に自分の思い・欲求が強まり、自分にとっての快や不快などを直感的に判断するようになってきます。そしていろいろな体験を通してだんだんと直感的思考が先行すると、思い通りにならない時に、泣いたりたたいたりひっかいたりすることも見られるようになります。親は時に叱ったり、規制したり、一緒に考えたりと、悩みはじめる時期に差し掛かります。



実はこのような行為は、無意識な判断の時期（直感的思考の時期）に刷り込まれた感情が欲求として出てきていることが多いのです。例えば夫婦での意見の食い違いによる言い争いの場面や、親が子どもに対して何気なくしてしまった、良いとは言えないような行動による不快な感情の経験など…普段の生活の中の行動一つひとつを子どもは親子間における信頼関係への判断の材料として吸収しています。心の中に満たされない不安が積み重なると、3歳頃からそれが前述したような行為として強く現われるようになる可能性もあるのです。

そこで毎日の生活の中では、子どもにとって好奇心や興味関心をそそる遊びをしたり、温かい言葉のシャワーをかけ続けてあげたりすることをおすすめします。子どもにとって、このシャワーは幸福感であり、親子の絆を強め自己肯定感となって、豊かな人間形成の原泉となります。毎日の暮らしに、考え、思い巡らしたりする機会があると、感動や喜び、楽しさやときめきが心を揺さぶり相手に言葉で伝えようとしします。こうした生活観が、「豊かな経験」と言われるものとなるのです。